

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 5 月 9 日

事業所名 はぐハウスⅡ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	活動内容に合わせて広さや使い方を工夫している。	環境整備を行う。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準以上の専門職を配置している。	配置基準は満たしているため、児童の様子や支援内容行事によって工夫していきます
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%		整理整頓を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	感染症対策も踏まえ毎日の消毒掃除を行っている。	危険のないように常に安全、清潔に環境整備を行う。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	78%	22%	会議を毎月行っている。	全職員の参画、周知を工夫していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケート結果については、話し合いながら、業務改善につとめています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	56%	44%	ホームページ等で公開しています。	全職員への周知に努めます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	施設内外の研修に参加している。参加出来ない場合は資料を提示している。	職員への積極的な参加を促し、スキルアップに努めます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	モニタリング用紙や日頃の会話よりニーズを把握している。	
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	78%	22%	独自のアセスメントツールを使用し、個々の特性や状況をもとに作成している。	
	11	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	発達支援を中心にお子様の特性に応じて具体的な支援内容を設定している。	
	12	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	児童発達支援計画の内容に沿った支援を行っている。	
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	保育士、理学療法士を中心に行っている。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	78%	22%	季節や状況を考慮しながら計画的に行っている。	全職員への周知に努めます。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	89%	11%	朝の会や季節の行事で集団活動を取り入れている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	100%	0%	朝のショートカンファレンスを行っている。 参加出来ない職員に申し送りする。	
	17	78%	22%	終了時間が一定でないので、常勤職員で行い翌日申し送りをしている。	
	18	89%	11%	連絡帳や送迎時の申し送り等で情報交換、共有を行っている。	
	19	100%	0%	必要に応じてモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20	100%	0%	児童発達管理者だけにこだわらず、状況に合わせ必要と考える者が参画している。	
	21	89%	11%	必要な情報の取得や提供に努め連携をはかっている。	
	22	89%	11%	他事業所、関連機関との情報共有、交換を行い、連携に努めている。	
	23	89%	11%	医療情報連携用紙にて連携を得ている。	
	24	89%	11%		送迎時に情報共有をしている。
	25	78%	22%	担当者会議への参加により情報共有、相互理解を図るよう努めている。	
	26	89%	11%	機会があれば積極的に参加している。	コロナが収束後には、積極的に機会を持っていきます。
	27	44%	56%		コロナが収束後には、積極的に機会を持っていきます。
	28	56%	44%		コロナが収束後には、積極的に機会を持っていきます。
	29	89%	11%	連絡帳や送迎時の申し送り等で情報交換、共有を行っている。	
	30	100%	0%	契約時説明を行っている。	
	31	100%	0%	情報収集を行って、職員と話し合いを行い、個々にあった支援計画を作成し、同意を得ている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリング時や悩みや困りごとなどの相談があった時に、傾聴し、助言を行っている。	
	33	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		相談や申し入れがあった際には、職員間で話し合い対応し、保護者へ周知・説明している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	89%	11%	毎月のお便りを渡し、支援活動報告を行っている。	
	35	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	個人情報の取り扱いについて保護者と書面で確認し注意している。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個々に合わせた意思疎通、情報伝達に努めている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	67%	33%		コロナが収束後検討していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	89%	11%	マニュアルは策定は出来ているので、周知する。訓練は定期的に児童参加で行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	89%	11%	災害訓練、消防訓練は年間計画の中で立案し、児童と一緒にやっている。	
	40	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	契約時の確認と医療連携更新時変更があった際の確認を徹底している。	
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師からの指示書をいただき、保護者からも聞き取りを行い対応している。	
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	全職員が積極的に取り組み事例検討を行っている。	
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部研修への参加と施設内での研修を行っている。	
44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	支援計画への記載と職員間での検討、保護者への説明と確認同意のもと行っている。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。